

結果等

- ここ2年間は地域と接触する機会が少なくなっていることで、地域からの期待、那珂川学の意義などの評価に影響が出てきていると考えられます。
- 検定や資格への意識の低さがみられます。要因として、卒業後の進路や人生においてどのように役立つのかの理解不足、また進学や就職までのプランニングができないことが考えられます。
- 部活動について評価が低いのは、精選により数が少なくなっていることに加え、コロナ禍で思うような活動が出来なかったり、大会に出られなかったりしたことが影響していると考えられます。
- 部活動に関しては、「勝ちたい部活」と「仲良し部活」で生徒の意見に差が生じ、不満や人間関係にまで発展しているケースがありました。更には、部活動という場面に限らず、「相手の気持ちを考える」事への認識の甘さが随所で垣間見られる一年間だったように思います。それらが「生活について」の評価の落ち込みに直結したと推察されます。

改善意見等

- 人間関係に起因するトラブルが多いので、SNSの使い方なども含めて人間関係構築のスキル習得に向けて取り組むことが必要と考えています。情報化社会において、個々人の情報発信等、プロの講師による講演会なども考えていきたいと思います。
- 生徒間のトラブルなどはすぐ解決の出来る事ではありませんが、生徒の成長を期待しつつ、より一層の積極的な働きかけをしていきたいと思います。
- 挨拶で学校の雰囲気も印象も変わります。多くの生徒が基本的な挨拶をもっと基本的になれるよう、集会や通信等で啓発をする必要があると考えます。
- 学校自体に興味に向くような対策や工夫を、様々な分野(部活、行事、那珂川学等)で立案しアプローチし続けることが大切だと思います。更には、生徒が学校に来やすい環境作り、生徒間のトラブルを予防できる働きかけを積極的行わねばならないと考えます。
- 一斉メール等の直接的な情報提供を、より一層充実させていきたいと思います。
- 進路については、保護者に情報提供の方法や知りたい内容について意見を聞くなどし、ニーズに合わせた情報提供をする工夫をしたいと思います。
- 保護者が学校に相談しにくいという印象を持っていることの要因として、電話が時間によって音声対応に切り替わる事なども要因として考えられます。本校は保護者との連絡がかなり密に行われていますので、それを継続しつつ、ご理解を頂けるよう懇談や総会などでの周知を徹底したいと考えます。
- 生徒への指導には教員との信頼関係が構築されていることが必須です。日頃の会話等も然り、授業等においても自身の資質向上や授業の工夫等、真摯に心がけていきたいと思います。
- 部活動については、学校の規模(生徒数)などから鑑みますと、現行以上に部活数を増やすことは難しいと思われます。部活の精選、更にはコロナ禍という限られた中でもモチベーションを保つために、「積極的な参加」という意識になるよう、生徒・教員が目標を共有し実践していきたいと考えています。
- コロナ禍で保護者と学校側が交流する機会も激減し、相互理解が十分になされないという負の作用にも繋がっています。しかし、コロナ禍を理由にするのではなく、小規模校だからこそ出来る事を模索し、保護者と学校が連携し、互いの十分な理解の上で生徒一人一人と接していきたいと思います。